

今日のキーワード 鉱工業生産指数(日本)

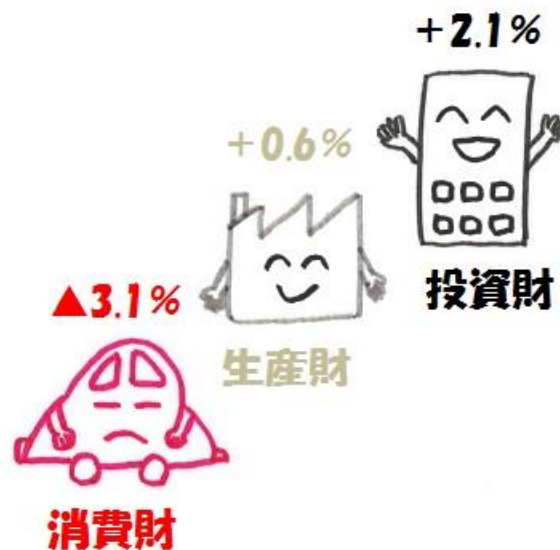
乗用車などの輸送機械や一般機械、情報通信機械など鉱工業部門の生産動向を指数化したものです。経済産業省が毎月発表しています。生産活動の全体的な推移を示す総合指数をはじめ、業種別や用途別(財別)などの指数が含まれます。企業の生産計画に基づく2カ月先の予測も公表されており、国内景気の動きを把握できる重要な指標として注目されています。

ポイント1 7月は小幅ながら2カ月ぶりにプラス 基調判断は「生産は弱含みで推移」を据え置き

- 8月29日に発表された7月の鉱工業生産指数は前月比+0.2%と2カ月ぶりにプラスとなりましたが、前月に公表された7月の予測値(同+2.5%)を下回りました。消費税増税の影響は和らぎつつあるものの、回復の度合いに力強さは見られませんでした。経済産業省は基調判断を「生産は弱含みで推移」で据え置きました。

ポイント2 消費財の回復が遅れる 乗用車やパソコンが不振

- 用途別では、企業の設備投資などに使われる「投資財」(前月比+2.1%)や機械類などの「生産財」(同+0.6%)がそれぞれ2カ月ぶりにプラスとなった一方、消費用の製品などの「消費財」は同▲3.1%と2カ月連続でマイナスとなりました。「消費財」では、乗用車などの「耐久消費財」が同▲4.1%、生活必需品などの「非耐久消費財」が同▲2.2%となっており、消費税増税の影響が残りました。
- 業種別ではコンベヤや一般用蒸気タービンなどが寄与し、「はん用・生産用・業務用機械工業」が同+6.3%、軽油やジェット燃料などの生産増加で「石油・石炭工業」が同+3.1%となりました。一方、乗用車などの不振で「輸送機械工業」が同▲2.5%、パソコンなどの不振で「情報通信機械工業」が同▲6.9%となりました。



今後の展開 消費の回復が今後の生産のカギを握る

■8月、9月は持ち直しの見通し

今後の生産動向の見通しを示す製造工業生産予測調査(企業の生産計画に基づく)を見ると、8月は同+1.3%、9月は同+3.5%と持ち直しが見込まれます。また、9月は「耐久消費財」などの回復が見込まれています。

■企業業績や雇用環境の改善の波及に期待

「投資財」がプラスに転じるなど設備投資関連は堅調に推移していると見られ、今後の生産回復は消費動向に左右されそうです。企業業績は回復基調にあり、雇用環境は改善していることなどから、今後は賃金が上昇し、消費が回復に向かうことに期待したいところです。

ここもチェック!

2014年08月27日【キーワード No.1,401】中小企業月次景況観測(日本)
2014年08月14日【キーワード No.1,392】日本のGDP成長率(日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。